

2015年(平成27年) 6月30日(火)

第6168号・合併号

# 厚生福祉

時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社  
昭和28年5月30日 第3種郵便物認可  
毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)  
購読料金 税抜月額4,100円  
本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。  
©時事通信社2015  
◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)  
kousei-dokusha@jiji.com

## 目次

特集	サ高住の現状と課題④ 数多い関係法令 ビジネスとしてのサ高住(1).....2
中央省庁ニュース.....8	リハビリ加算の影響を調査 報酬改定の効果検証で/医療福祉のデータ追加/地域経済分析システムを拡充 ほか
進言(高知県).....9	
調査・統計	2014年人口動態統計(上) 合計特殊出生率1.42、9年ぶり減 出生数は100万人割れ目前に.....10
報告書	中山間地で「よるずや」づくりを医師の巡回サービスも—総務省報告書.....12
インタビュールーム(奈良県).....13	
海外トピックス.....14	
私たちの工夫.....15	
事件・事故・裁判.....16	
短信.....17	
ニュースフラッシュ.....18	

【福祉・子ども】若者に新築を3万5000円で賃貸/書類の性別欄、25事業で廃止/いじめ相談のスマホアプリ運用 ほか 【医療・健康】保健師確保へ試験変更/横浜市などで「陣痛タクシー」/糖尿病受診、薬局に「成功報酬」【環境・ゴミ】売電収益の一部を集落に/ハイブリッド避難誘導灯を設置【労働・女性】障害者雇用企業の支援センター新設

## 一隅を照らせ

私が愛する西目屋村は、世界自然遺産・白神山地の麓にあり、小さくともキラリと輝く元気な村を目指しています。キラリと輝くためのヒントは「住民の声を聞くこと」「ふるさと(資源)を見つめ直すこと」「時代がどのような方向に向かっているかを敏感にキャッチすること」だと感じています。それらを多くの人と十分に語り合い、常に時代の先を見据え、創意工夫とアイデアによって新たな政策を展開することが、村の飛躍につながるものと考えています。

村長として最初に取り組んだことは、誰もが住みやすい優しい村づくりで、行財政改革で得たお金を「物から人へ」と村民に還元させました。特

青森県西目屋村長・関 和典



に子育て支援に力を入れ、保育料無料化・高校卒業までの医療費無料化等の政策を展開してきました。私は、赤ちゃんという存在は村の宝であり、行政として学ぶべき対象だと思っています。それは『赤ちゃんの一期一会』です。純真無垢な赤ちゃん、触れるもの全てが初めての出会い(体験・刺激)となり、一つ一つの行動体験をスポンジのように体に吸収し成長していきます。行政も同様に、柔軟かつスピーディに対応し、成長していくべきであると考えています。

昨年は二つの宣言をしました。一つは「子育て応援日本一の村づくり宣言」、もう一つは「健康長寿で生涯現役の村づくり宣言」です。どちらの

宣言も、村の進むべき方向性を村民全員で確認しました。行政が一つの道標を示し、そこに全力で取り組む姿勢(行動)が、村民一人ひとりの意識、さらには地域全体のモチベーションを高め、ひいては、自分の住む地域(ふるさと)に自信と誇りが持てるようになるのではないかと考えています。実際、村民の姿勢に凛とした心意気と静かな達成感が見受けられ、活気と躍動を感じる地域になってきたと感じています。

最後に、村長就任以来、皆に対して言い続けてきたことを紹介します。「誰かがやらなければならぬことがある。誰か他の人がやってくれるだろうといった気持ちでは事は成らない。確かに一人では何もできないが、一人が始めなければ何事も始まらない。それぞれの立場で精一杯努力する姿勢が大切である。一隅を照らせ」